

令和7年度 志賀中学校努力点

1 名古屋市学校教育の努力目標 ⇨ 「ナゴヤ学びのコンパス」

(1) 実現したい市民の姿

「自由な市民として 互いを認め合い、共に社会を創造する」

(2) 目指したい子どもの姿

「ゆるやかな協働性の 中で自律して学び続ける」

—— 自律して学び続ける姿 ——

- 興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む
- 学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ
- 学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける

(3) 重視したい学びの姿

「自分に合ったペースや方法で学ぶ」

「多様な人と学び合う」

「夢中で探求する」

(表1 指導の個別化、学習の個性化の具体的なあり方)

指導の個別化	学習の個性化
教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと	子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整すること

※「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）」より

3 本校の校訓 ⇨ 「誠実・努力・挑戦」

4 本校の教育目標 ⇨ 「よりよい社会をつくる人間になるために」

- ・お互いを大切にしよう。
- ・「なぜ」と考えよう。
- ・進んで計画し、やりとげよう。
- ・力を合わせよう。
- ・自ら行動しよう。

5 本校の学校教育努力点

(1) 主題

自分を知り、決めた目標をやりぬく

～キャリア教育を意識して～

(2) 学校努力点の設定理由

これからの社会では、生態系から働き方、文化に至るまで幅広いジャンルで多様性が求められている。また、現在の社会も人工知能、ビックデータ、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた時代が到来しつつあり、社会の在り方も劇的に変化している。そのような社会の中で、進路選択を求められる中学生にとっては、様々な選択肢が与えられるが、選択肢が増えることで、何を選択するかに迷ってしまう生徒が多くいる。

そこで、中学校3年間を通し、自分の得意、不得意を理解し、自分で目標を決め、長所を伸ばすだけでなく、苦手な部分もあきらめることなく決めた目標までやりぬく生徒を育成したい。また、自分の内面にも目を向けて、心の状態を理解し、ストレスマネジメントができたり、周りに助けを求められたりする生徒を育成したいと考え、次のような努力目標を設定する。

昨年度は、上記で示した「学習の個性化」を意識し、各学年の総合学習への取り組みのスタート地点で、生徒に課題設定の自由度を増やし、「生徒の興味・関心」をより重要視したものにした。具体的には、3年生では「修学旅行」、2年生では「職業体験」、1年生では「市内分散」の活動である。また、まとめの発表は、「他者に働きかける力」を意識した、一人一人の個性が生かされた発表となった。

今年度は、「キャリアタイム」が始まることで、総合的な学習の時間や各教科の時間で、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを教師や生徒が意識しながら授業を進めるようにしたい。

※ 身に付けさせたい力とは



※ 上記の力をピクトグラムで表したもの



上記の4つの力の中でも、今年度は特に「自己理解・自己管理能力」を意識して育成を図りたい。

6 具体的な努力目標

(1) 育てたい生徒像

- 自分の現在の力を認識し、目標設定できる生徒
- 自分の目標に対して粘り強く努力できる生徒
- 周りの人に寛容で、人の目標を受け入れられる生徒

(2) 作り上げたい学級像

- 自分と違う価値観を認め、ともに高め合う学級
- 安心できて、居場所がある学級
- 自分の役割を持って、行事に向かえる学級

(3) 実践の重点

- 身に付けさせたい力（基礎的・汎用的能力）をピクトグラムで表したものを志賀中学校ブロック（3小1中）で統一し、授業を行うときに黒板に掲示したり、プリントに載せたりするなど教師、生徒が何を意識して授業を行うのかを明確にする。
- 教科指導において、生徒自身が目標設定し、自分のペースで学べる時間を設定したり、提出物は、教師が指定した目標に到達しない場合でも、必ず提出し、指導が受けられたりすることを意識する。
- 特別活動では、多くの生徒に役割を与え、生徒自身が目標を定め、努力できる環境を提供する。今年度は特に、体育大会を生徒主体で行えるようにする。